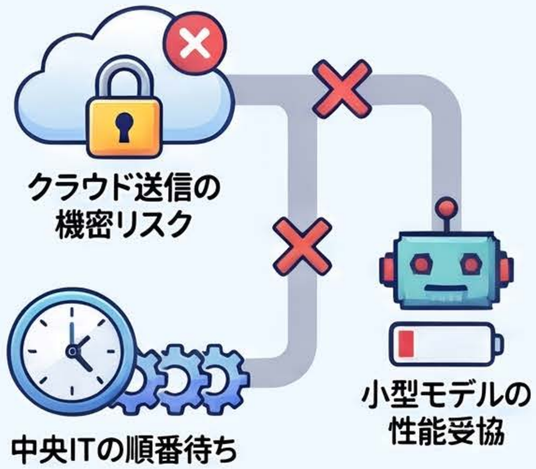
HP ZGX Fury G1nが変える知財業務：機密保護と高度AI活用の両立

従来の知財AI導入における「3つのジレンマ」



クラウド送信の機密リスク、中央ITの順番待ち、
小型モデルの性能安協という課題がありました。

機密を部内に閉じる「第4の選択肢」の登場



2,849万円（税込）～の5U筐体で、
未公開発明や契約書を部内閾城のまま
最大1兆パラメーター級モデルで処理可能です。

1.6kW・デスクサイド級設備への圧縮

データセンター級の性能を既存サーバールームへ
設置可能な設備サイズに凝縮しています。

「Confidential-by-Default」運用と導入ロードマップ

機密はローカル、
ピーク負荷のみクラウドへ

未公開発明や契約書は
ローカルAIで処理し、



ローカルAI
（機密・未公開）

Gatekeeper



承認済みクラウド
（公開特許・ピーク時）



公開特許の大規模処理時のみ
承認済みクラウドに委ねます。



知財業務全体への
価値提供

2026年～2031年に向けた3段階ロードマップ

2026年

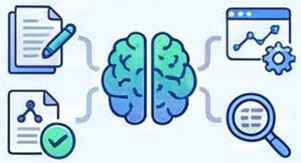
PoCと評価基盤整備から開始し、
ファンデションを実施

中期



特許検索RAGの本畳化を綾て、
AI分析を得に変化

2031年



知財ワークフロー全体の
AIネイティブ化を目指します。

知財部門（10～50名）における各運用形態の適合度比較

	オンプレ（ZGX単体）	クラウドAI	ハイブリッド（推認）
未公開・機密情報の保護	✓✓ 極めて扱いやすい	✓ 契約・設定に依存	✓✓ 非常に扱いやすい
コストの弾力性・拡張性	× 低	✓✓ 高	✓✓✓ 非常に高い
知財部門への総合適合度	✓ 高	✓ 低～中（稼働率依存）	✓✓✓ 最高

Gemini Notebook